

9

2002
月号
vol.132

宮城県倫理法人会会報 ■rapport■

ラポール

● 四役特別研修の大特集

……………富士研にて

● 2000社達成に向けて始動!

……………2006年の設立20周年に向けて会員拡大



(富士高原研修センターにて参加者全員で記念撮影)

ラポール (rapport:フランス語)

もともとは報告・つながり・関係などを意味するが、対人関係における円滑な精神的交流を指すようになった。





20周年には2000社を達成しよう

宮城県倫理法人会 会長 原田 善征 (株式会社ホテル原田 社長)

21世紀を迎えたと思ったら、早いもので2年が過ぎました。1900年の初頭、理性を信じる人々は20世紀の世界を楽観視していました。技術は進歩し、暮らしは豊かになり、政治もよい方向へ向かうであろうと希望的に考えていたのです。しかし、結果はそうではありませんでした。二度に渡る破壊的な世界大戦を経験するなど創造もしていなかったのです。

西暦2000年を迎え、時代の気分は百年前とはまったく逆となりました。爆発する人口増加やそれに伴う食料問題。枯渇する天然資源と悪化の一途をたどる環境破壊。そして民族や宗教対立に伴う地域紛争や悲惨なテロ行為。人類の進歩は不信と不安に変わりました。今世紀は誰一人として明るい未来を描くことができないでいます。

20世紀初頭の電話の発明と今日のコンピュータの革命により、ここ百年で何万倍も歴史のスピードが加速されたと言われています。そのスピードや変化についていけるのはほんの一握りの人々で、大半の人々は流されるままになっています。日本においても時代変化についていけず、苦しみ自信を失い、未だ不況から脱しきれず国民の活力は落ちていくばかりです。また各業界でモラルハザードが広がり、混迷の度は益々深まるばかりです。とりわけ教育の荒廃と家庭の崩壊は国を揺るがす大問題となっています。

倫理研究所法人局では2007年に5万社体制の基礎固めを進めるために今年も未普及地域への拠点づくりを積極的に推進しています。宮城県としては2006年が設立20周年にあたるので、区切りのよい会員数2000社達成を目指します。そのためにも会員が一つに結束して普及活動を展開していきますので、皆様のご協力並びにご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

● 仙台中央倫理法人会

会長 鈴木征三郎 (パセロン歯科医院 院長)



240社を目標に掲げ…。日本再生の鍵は倫理の普及にあり

昨年の九月、会長就任と同時期に世界を震撼させた同時多発テロ事件が起きました。それから狂牛病問題や雪印乳業のような大手企業の不祥事も次々と発生しました。それに対して外務省や農林水産省といった国の機関の対応のまずさも露見しました。バブルが崩壊した日本は、長年築き上げてきたものが至るところでヒビが入り、坂を転がるように転落の道を歩んでおります。政財界はもちろん、教育や医療の現場でも不祥事や事件が毎日のように報道されています。この困難なときに、公僕たる役人や企業のトップが護身に走るのは何と情けないことか。日本人の精神的な強さと判断力を発揮するのはこのようなときではないでしょうか。これでは戦後JHQの目論見通り、日本人の精神解体が見事に成功したとみるべきです。それで

はあまりにも情けないし、悔しいではありませんか。

日本人としてのアイデンティティ、その思想と理念はどこへ行ってしまったのでしょうか。人間としての善悪の判断基準を無くしてしまったとでもいうのでしょうか。日本人の精神骨格となった歴史、哲学、倫理、宗教、職は人間性を育て美意識を育みました。その教育がどこへ行ったのでしょうか。今日こそ天台宗の開祖最澄の「一燈照隅、万燈照国」のとおり、一人ひとりが身を正していくしか日本を救う道はないのです。

倫理普及活動は日本再生の鍵と考え、自ら率先垂範して会員増強する所存であります。仙台中央倫理法人会は会員240社を目標に掲げました。それを実現させるには、これまでの委員会活動プラス、若手中心の普及拡大推進プロジェクトチームを結成しました。既に外に向かって普及活動は計画どおりに実行に移っております。



● 石巻市倫理法人会

会長 末永 勳二 (末永海産株式会社 社長)



目標175社達成! 倫理活動で石巻地域の活性化を

石巻地域全体が経済停滞状況の中で、会員数の減少傾向にあることは否定できない事実であります。目標175社達成のためには、倫理活動の内容をしっかりと理解し、その中身を自らの企業に取り入れようとする意欲的な後継者等、次代の経営者がいる企業に照準を合わせます。その若者の熱気が輪となり、石巻地域にしっかりと根をおろした集団を作るだろうと考えております。若者の活性化無しにして、町の活性化は考えられません。

また、これまでは石巻市内を重点に活動してきましたが、我が石巻地域には、石巻市ほか9町もまわりに有り、約5000の事業所が存在します。その中には倫理を会社に導入してくれる素晴らしい企業が多くあるだろうと信じております。全役員及び会員がMS活動の見直しや講演会等の見直しに着手し、数多くの企業が日々の倫理活動に参加できるよう検討していく所存であります。

混迷する経済界において、しっかりした「羅針盤」と「ものさし」を企業の中に取り入れる時期は今においてほかにありません。拡大は実践の場が与えられたという前向きな姿勢で受け止め「石巻地域の活性化は倫理から」をスローガンに、県第2都市石巻の誇りにかけて仲間と共に目標達成のために頑張る覚悟でありますから、よろしくお願い申し上げます。



● 仙南倫理法人会

会長 佐藤 隆雄 (株式会社ジェー・シー・アイ 社長)



必達、150社! 富士研での熱いメッセージに応える

宮城県倫理法人会2006年、設立20周年2000社実現に向けての仙南倫理法人会は
 1、倫理を学び実践することに 「こだわる」
 2、仙南地域の会社 「かかわる」
 3、2006年150社達成に 「挑む(いどむ)」
 をスローガンに掲げます。

具体的な方策として「こだわる」はモーニングセミナー等の充実はもちろんのことですが、新たに「倫理経営で繁栄する社会づくりのための経営セミナー」を開催します。「かかわる」のターゲットは仙南地域の会社で、県のスローガンにもある「次代を担う新進気鋭の人材」つまり若手経営者、若返りたい経営者、不本意に倫理を退会してしまったがもう一度学びたい経営者であり、「挑む(いどむ)」は、常に経営革新をしなければ衰退することは必至です。会員増強に「挑む(いどむ)」ことによって地域が活性化するものと確信しております。

四役研修でバスが富士研を目指して霧で方向を失いました。研修期間中霊峰富士の山頂は姿を現すことはありませんでした。しかし、富士研には無事到着したし、霊峰富士の山頂も実在しています。仙南倫理法人会150社も現在は五里霧中かもしれませんが実在しています。倫理研究所の先生方、原田善征会長はじめとする宮城県倫理法人会役職員の皆様の熱いメッセージに仙南倫理法人会は必ず応えます。



● 佐沼倫理法人会

会長 鹿野 博之 (株式会社グランドホテル鹿野 社長)



会員120社を目標に…。 富士研は自己の本源に目覚めるところ

近年にない猛暑が続く中で、倫理活動に、また仕事に大変な日々を過ごしているこの頃です。

7月2日に2度目の富士研セミナーに参加しました。富士山麓に綾なす四季の風情と薫りで、心身ともに洗浄されるような気持ちでした。参加した経営道の道友とのふれあいの楽しさの中にも、緊張感のある3日間でした。

『純粹倫理』のトレーニングにふさわしい研修施設として、また自分が生まれ変われる学びの「道場」として富士研でのセミナーは、これからの運命を切り開く能力を養うことが出来たと思います。そして、そこは自己の本源に目覚める「静道」であり、また「静謐」であり、正に「魂の源郷」といえるところでした。

好転の兆候も見えぬ昨今の経済状況下で、会員各自が己の生活と経済姿勢を見つめ直すときです。そして更に会員拡大にも各社の理解を求めつつ、積極的に運動している現在です。

宜しくご理解していただきたく、ご支援下さるようお願いいたします。



● 大崎倫理法人会

会長 佐藤 俊明 (株式会社佐藤酸素 社長)



四役特別研修で誓ったこと。2006年に160社! さらに栗原倫理法人会を立ち上げるぞ!

研修の全体テーマは「惚れ直す」であった。とてもタイムリーなテーマである。倫理活動を通して学んだことが基本にあったため、非常に厳しい経営環境下でも方向を見失うこともなく前に進めたことに心より感謝したい。そして、改めて倫理での学びは本物であり、会員拡大こそ倫理運動の実践の場であると確信して倫理に惚れ直す。これらの想いを心に秘めて、2006年設立20周年2000社達成を目標に、次のように決意する。

一、倫理経営を通して地域経済活性化の一翼を担う。

- 一、委員会の運営を始め、MSあるいはイブニングセミナー等の研修を通して、活力溢れる人財育成の機会づくりをし、お互いの資質を高めあう。
- 一、2000社達成を目指して、栗原広域圏に栗原倫理法人会(仮称)を正法人会として立ち上げるため、拡大委員会を設置する。

じっくりあせらず倫理の本質を理解してもらう機会を積極的に企画・立案し実践することにし、2004年9月を区切りとして設立を目指す。以上、3点を重点目標に掲げ、平成15年度のスタートとする。



● 仙塩倫理法人会

会長 鈴木 光夫 (株式会社鈴電 社長)



将来の目標150社!

広げよう倫理の輪(和)! 今期中に100社復帰!

仙塩倫理法人会では富士研での四役特別研修に私と、小島副会長、荒木専任幹事の3名が参加しました。7月1日はあいにくの悪天候で、バスは迷路に迷い込んだように富士山麓の霧の中を突き進んでいきました。窓外は何も見えません。すると霧の中から突然現れるように、威容を誇る倫理研究所・富士高原研修所が出現したのです。私たちはそのスケールの大きさに圧倒されました。しかし、近い将来全国で五万社にしようとする倫理研究所の意気込みが、じかに膚に伝わってきました。研修中にも多くの会友たちとふれあい、まさに広げよう倫理の輪(和)にふさわしい数日でした。

仙塩はとにかく今期中に100社復帰を目指しています。そしてアットホーム的で明るく楽しいモーニングセミナーにし、毎週の出席者30名を確保しながら、新規見込み会員をできるだけ多く連れてくる運動を行っています。宮城県倫理法人会は4年後に20周年を迎え2000社達成を目指しています。仙塩もほかの単会に負けてはいられません。20周年までには何とか150社を目標にがんばりたいと思っております。



● 気仙沼市倫理法人会

会長 村上 力男 (株式会社あさひ鮎 社長)

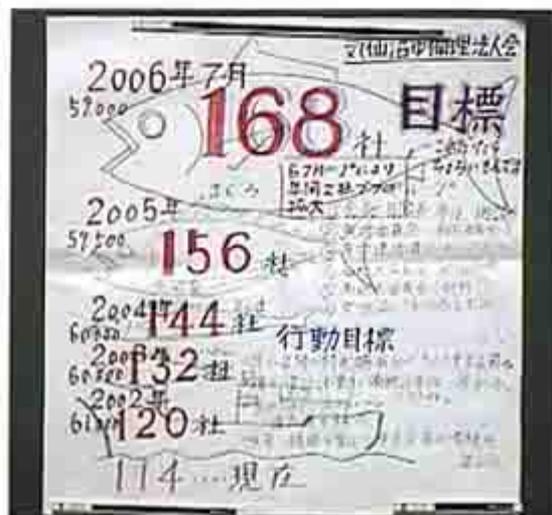


168社を目指して。

「民の欲するところ、天も必ずこれに従う」
日本の心を伝える地域のリーダーを夢見て!

「天は人民のことを心にかけている。されば人民の願いなら必ずかなえてくれるはずだ」という中国古典の名言です。

このところ日本でもアメリカでも大企業の不祥事が続いています。企業の墮落、経済界の倫理感の希薄さは実に憂慮に堪えません。国民も心ある経営者も、この現況に危機感を持ち、自社を守る手だてを考えているはず。そうした時に私達の倫理の学びは経営の本質であり、経営者の「道」として信念を持って人に薦め、地域に発信し、特に地域の優良企業経営者の理解と協力を取りつけていきます。それと並行してモーニングセミナーの活性化と地域に対する奉仕活動に力を入れ、現会員が融和に満ち、企業が元気であること。そうした前提をしっかりと踏まえて2006年には168社の会員に向け、「日本の墮落を正すのは、我が倫理法人会である」の信念と情熱を持って堂々と挑みます。「民の欲するところ、天も必ずこれに従う」



● 仙台泉倫理法人会

会長 萱場 靖夫 (カヤバ管材株式会社 社長)



230社達成! 4年目を迎え、2000社に向けてさらに一致団結。

泉倫理法人会も四年を迎えました。関係各位には心から御礼申し上げます。早いもので川又康紀前会長の後を引き継ぎ二年目に入ろうとしています。

7月2日、3日と富士研において宮城県倫理法人会四役特別研修があり、泉からは6名参加しました。研修のテーマは「惚れ直す」。宮城県倫理法人会は二十周年に向けて原田善征会長が「活動方針」を発表。続いて曳地邦男幹事長が「現状を語り合う」のテーマで講演。2006年には2000社達成を目指そうということです。泉においては230社のノルマです。大変な驚きでしたが、参加した我々は前向きに受け取り、さっそく計画作成に入りました。そして「4年先の達成を目指そう」の合言葉で富士研を後にしました。やれば必ずできるの精神を心に秘めながら。

泉倫理法人会の活動重点目標は「明るく、楽しい倫理の和の拡大」を掲げました。倫理経営、活動、運動、社会奉仕を通して、この厳しい経済環境を乗り切らなくてはなりません。強い企業とはどんな時代でも継続し続ける会社です。お客様から信頼され、喜ばれる企業。そしてお客様への完全なサービスをすることに尽きるのではないのでしょうか。会社を良くするには「職場の教養」を活用し、朝礼の実践をすることです。また早朝のモーニングセミナーに参加し、すばらしい仲間との語りや出会いが大切です。

純粹倫理の輪を広げながら、しかし自分の城は自分で守ることです。皆さん普及活動に力を入れていきましょう。

最後に、毎週朝早くからモーニングセミナーの会場をお貸しくださる仙台ロイヤルパークホテルの従業員の皆様には大変感謝いたしております。ほんとうにありがとうございます。これからもよろしく願い申し上げます。



● 仙台若林倫理法人会

会長 松谷 一夫 (株式会社 松や 社長)



150社達成に挑む! 2000社への誓い

宮城県倫理法人会の2000社達成の中で、若林倫理法人会に与えられた必達目標は150社であります。1500社達成時も140社であり、会員各位が一生懸命拡大に頑張りました。現状は義理で入会した人や、中央から移籍した方はほとんどが退会して106社であります。四年後とはいえ、150社体制は現状からして100社増やす目標を掲げなければ達成できない数で、現在の倍の会員数ということになります。宮城野区を中心とする分封が決まり、協力体制に取り組みねばならず、どうしても100社増を達成しなければなりません。

幸いなことに若林もMSへの出席者の数も微増してきており、これもMSの回を重ね、内容も充実してきていることがもたらしていると会員各位には感謝せずにおられません。

平成15年度の役員構成も決まり、第17条にありますように「人生は神の演劇、その主役は己自身である」ことをみんなで認識し、どうせならそれぞれの立場で主役を演じてみようという意気統合し、MSの充実と会員拡大を確認しました。若林の会員は私をはじめ設立されてからの入会者で役員が占められて経験者がほとんどおりません。しかし、回を重ねるうちに倫理法人会の良さを知り、欠席している会員を無理なく参加させるよう働きかけていこうと話合いました。会員一人ひとりが大きくなっていく姿が見え、楽しみな若林倫理法人会になってきました。楽しく希望を持って150社達成に向かいたいと思います。



● 仙台宮城野倫理法人会

会長 小倉 寿一 (株式会社オグラ 社長)



7・3富士研での230の誓い

宮城県倫理法人会創立20周年を記念し、2006年8月に2000社体制を敷くべく、嵐の中を我々は富士総研に深夜結集した。前途を祝すように富士山麓は燃えるような猛烈な嵐の中、会員一人ひとりを鼓舞するようであった。

宮城野倫理法人会は富士研で次のような作戦を立てた。宮城県倫理法人会を2000社にするためには、新設法人会を設立させなければならないので私達宮城野が主体となり、若林倫理法人会さんと共同で新設法人会を立上げる事にした。両法人会の目標社数は、宮城野が120社で、新法人会(仙台萩倫理法人会一仮称)が110社で、合計230社のとてつもない目標となった。具体的に新法人会の立上げには宮城野より30社、

若林さんより20社の合計50社の移籍会員をお願いすることにした。従って宮城野は50社、新法人は60社の実質的な拡大が必要となる。

新設法人会立上げには会長予定者の人選が大事なので、当初は外部よりお願いする予定であったが将来の会運営の事も念頭に、宮城野の会員より適切な方を推挙するのがベターではないかとなった。幸い宮城野は人材に恵まれているので心配はしていない。今後の活動については、準備期間を2005年8月まで行い、9月より具体的に作戦を淡々と推進する事にする。よって2005年8月までは市場調査、組織・構成など綿密に確立することは言うまでもないと思う。

最後に私は宮城野の会員すべてを信じているので、230社は達成できると確信している。



● 仙台太白倫理法人会

会長 高野 十 (株式会社オートランドリータカノ 社長)



156社を目標にして、さらに努力を!

富士高原研修所での感想と2006年に向けての所信表明

設立3周年で初参加の研修が、富士研での四役合同研修とあって、太白から参加した3名はかなり緊張を隠せないままバスに乗り込みました。しかし、車中での会友との会話も弾み、研修所と同じ部屋になった12名と大いに親交と友情を深めました。実習に入り、倫理研修所の先生方から純粋倫理の真髄を学び、実践体験から得られる倫理の奥深さにただただ感動しました。

宮城県倫理法人会は2006年の設立20周年には2000社を達成しようとしています。それにたいして富士研に参加した13の単会はそれぞれに叡智をしぼり、2000社達成

に向かって始動開始致しました。太白も会員拡大するにはどうすべきか、参加者全員が知恵を出し合って考えました。しかし、昨年設立15周年1500社達成のとき、太白は100社でスタートしましたが現在86社です。実情とやり方に反省を求められました。私達が力を入れてきた企業訪問と朝礼指導はそれなりに良かったものの、新規会員を拡大するまでには至りませんでした。そのやり方には大いに反省しなければなりません。それで拡大するには、現会員が積極的に見込みとなるような企業を訪問することにしました。古い皮袋に新酒を入れるように、特に若い起業家や経営者、また後継者に照準を合わせ、セミナーや親睦会を積極的に開催し、広く参加を呼びかけていきたいと思っております。



● 仙台青葉倫理法人会

会長 林 昭兵 (南東洋環境開発 社長)

**128社が達成目標 20周年にむけた会長の決意**

この度の富士研セミナーへの参加は倫理歴の浅い私にとりましては大変有意義な勉強会でした。この講義を聴かずに、今期の会長職に就いていたら、満足な会の運営は出来ないのではないかと思います、参加して良かったとの思いが募ります。

6月初めに当会の松良会長、石山専任幹事より、次期会長にとの要請が有り、一度は自分に荷が重いとの判断でお断り致しました。ところが、次期事務長予定者の田沼さんから「倫理では何でも断らずに『はい』の一言でお引き受けするんですよ」との言葉が私に決断を促し、引き受ける結果となった次第です。はじめはいつも顔を合わせる方々(20~30名)のお世話役で良いのだろうと案外簡単に考えておりましたが、このセミナー

に参加して責任の重さに唯唯身の引き締まる思いで一杯です。3日間研修の最後の決意宣言に於いて、参加者全員の前で「私は我が社と倫理法人会の発展及び、日本再建と世界の平和を念願して、原田会長が掲げた2006年に向けての活動重点目標を達成すべく努力致します」との宣言を致しました。

青葉倫理法人会の皆様と力を合わせ頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

**● さくら倫理法人会**

会長 齋 清志 (株式会社エフエフオー 社長)

**さくらの花から実に…230社達成目指す!!**

さくら倫理法人会が2年目の活動に入り、仙南の地に倫理運動の根をしっかりと張り巡らそうという時期、宮城県が2006年の設立20周年に2000社達成を目指して、四役特別研修を富士研で開催され、我がさくら倫理法人会からも5名が参加し、3日間真剣に学んできました。山口健次教務部長はじめ富士研スタッフの徹底したご指導のもとに、生活の基本を学びました。研修が始まり、中西浩事業部長の講義、原田善征県会長の所信表明、星川滉一常任相談役の提言や田中裕人常任相談役のメッセージに感銘。さらには曳地邦男幹事長によるグループ実習と続き、目標を掲げいかに達成するかを確認し、さくら倫理法人会としての決意と策定を発表しました。

※普及スローガン……夢かぎりなく、会員とめどなく！
を掲げ、

※目標達成…2006年8月・230社達成に向けて
“志を高く”持ち、会員一丸となって「思うこと」「言うこと」「すること」の実践に取り組んでまいります。

